



日付変更線はなぜ経度180度にあるの

日本の標準時は明石市

太陽が真南にくる時刻を、南中時刻とよびますが、日本の中でも、場所によって、その時刻はちがいます。地球は、24時間で1回転するので、経度が15度(360度÷24=15)ちがうと、南中時刻も1時間ちがいます。

春分の日、東京の南中時刻は、11時48分ごろですが、大阪は、12時8分ごろです。これは、東経134度の大阪は、東経139度の東京よりも、西へ約550キロメートルはなれ、緯度差が5度あるので、大阪の南中時刻が約20分おそくなるのです。

もし日本各地で、それぞれの南中時刻を正午として、時刻を決めると、同じ国内で時刻がばらばらになり、たいへん不便です。そこで日本では、東経135度の兵庫県明石市を基準にして、共通の時刻を使います。これを、日本標準時といいます。

ロンドンの正反対(真裏)の地域が経度180度

世界の標準時は、ロンドンにあるグリニッジの地方時を使うことにしています。グリニッジから地球を東に回ると、だんだん時刻は早くなり、西に回るとおそくなります。グリニッジが正午のとき、東京は午後9時、ニューヨークは午前7時です。

グリニッジから東回りに経度180度(東経180度)の所は、12時間進んでいることになりませんが、西回りに経度180度(西経180度)の所は、12時間おくらせていることになり、つまり、日付がちょうど1日ずれることになり、それで、ここに日付変更線がもうけられたのです。(監修・国司 真)

